

**第3回 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会
議事概要**

事項	第3回 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会 議事概要	出席者	10名 (随行者・事務局除く)
日時	平成29年2月9日(木) 14:00~16:00	場所	兵庫県学校厚生会館 2F大会議室
内容	1 開会 2 議事 (1) 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会設置要綱の改正について (2) 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画の概要について (3) 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画のフォローアップについて (4) 主な取組みについて (5) その他情報提供 3 その他 4 閉会		
資料	議事次第、出席者名簿、配席図 資料-1-(1) 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会 設置要綱 資料-1-(2) 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会 公開要領 資料-2 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画 概要版 資料-3 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画 フォローアップシート 資料-4-(1) 神戸市の下水道事業について(三宮南地区浸水対策事業) 資料-4-(2) 六甲山系グリーンベルト事業について 資料-4-(3) 神戸総合治水フォーラムの概要 資料-4-(4) 手作りハザードマップ作成支援 資料-5-(1) 平成27年台風11号での石井ダムによる効果事例 資料-5-(2) 高等専門学校・高等学校と行うカリキュラム連携事業について		

1 開会

2 議事

(1) 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会設置要綱の改正について

事務局は、資料-1-(1)により「神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会 設置要綱」資料-1-(2)により「神戸(表六甲河川)地域総合治水推進協議会 公開要領」の改正について説明を行い、要綱等の改正について承認を得た。

(2) 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画の概要について

事務局は、推進計画策定後、概ね2年が経過し、また前回から変わられた委員の方もいることから、資料-3により推進計画の概要を説明した。

(3) 神戸(表六甲河川)地域総合治水推進計画のフォローアップについて

事務局は、資料-3により推進計画の「ながす」「ためる」「そなえる」対策の進捗状況なら

びに今後の予定等について説明を行った。

(4) 主な取組みについて

事務局は、資料-4-(1)~(4)について説明を行った。

【意見交換】主な意見は、下記の通り。

- ・平成27年9月頃の洪水時に避難情報が出されたので、テレビ画像で洪水情報がリアルタイムで確認できるシステムが設置されている湊川防災センターに行ったが、当時、センターが休みで確認することができなかった。このような場合、だれがどのように対応してくれるのかを質問したが、その返事をまだもらっていない。(県民委員)
- ・現在、関係機関で対応策を協議しており、年度内には回答ができる予定。(事務局)
- ・年度が明けるとすぐ梅雨の時期になるので、できるだけ早く回答してください。(会長)
- ・今の浸水想定区域図は1/100程度の降雨を想定しているが、1000mmを超えるような極端な降雨を想定する必要はないけれども、せめて500mmあるいは600mm程度の降雨での浸水想定情報を提供してほしい。そうすれば、住民は避難勧告とかを待つのではなく、危険度を認識し自己判断で行動するようになると考えている。行政は、住民自身が判断して自己責任で行動が起こせるような施策を行うべき。(県民委員)
- ・これまでは100年に1度程度の洪水を対象に浸水想定区域図を作成してきたが、今後は想定最大規模の降雨に対する浸水想定区域図を作成し、順次お知らせしていく予定である。また、県でも神戸市でも精度の高い情報を提供するシステムを構築しており、それらを利用しただけのよう、出前講座や手作りハザードマップの作成などの機会を通じて情報提供を行っている。(事務局)
- ・六甲山系グリーンベルト事業の説明の中で、「みんなの森づくり」に市内の5小学校が参加しているとお話してしたが、「六甲山を愛する子供たち」ということで、全ての小学校が年に1回くらいは六甲山に赴き、山やそこに生える木の役割等について勉強してほしいと思う。(県民委員)
- ・六甲山は人々の生活様式や文化の進展と共に改変が進められてきたことから、災害を完全に押さえ込むことには限界があり、減災に力を入れる必要がある。災害が発生した時は初動体制でどこまでできるかが肝心で、その時の避難体制や避難場所の確保を確実に行うことが、人命を守るために必要である。また、障害者、妊婦、外国人等の災害弱者となる方への柔軟な支援方法も必要である。(県民委員)
- ・アメリカではハリケーンによりニューオーリンズで大きな被害があったことを教訓に、「想定外をなくするために」ということでタイムラインが検討された。これは、大きな災害が起きる前はどんな準備をするのか、大きな災害が近づいてきたら何をするのか、あるいはその最中で何をするのかということをおあらかじめ考える取り組みのことである。また、この取り組みに関連して、鬼怒川の事例から、1つの市や1つの町だけではなく、より広域で考える必要があるということで、広域連携協議会といった取り組みも検討されている。想定される被害を最大限に考えていくと、被害想定も大きくなり、それに対してどのように対応していくかも検討され始めている。(会長)

- ・新湊川については、100年に一回程度の洪水が発生した時は別として、ほとんどは溢れないと考えている。ただ、過去の洪水被害のほとんどは、六甲山から倒木が流れてきて、それが橋げたに引っかかったことによって起こった被害で、六甲山の対策をしっかりと実施していれば大丈夫と考えている。今後も対策の実施をお願いする。(県民委員)
- ・グリーンベルト事業はまさにその対策である。先ほども話があったように、ネザサなどは他の種が生えなくなるので問題となっている。(会長)
- ・六甲山での自然学習については、今日の説明にあった5校以外にもたくさんの学校が実施している。実態とあってないので確認してほしい。(県民委員)
- ・教育委員会に問い合わせて、防災教育などの実態を把握してほしい。(会長)
- ・六甲山は花崗岩が多く、風化しやすいのでその対策をしっかりとやってほしい。(県民委員)
- ・花崗岩の風化は温度による体積膨張の違いによっておこる。風化した土がそのまま残っていると風化の速度は抑えられるので、砂防や治山は重要である。(会長)
- ・地域のまち歩きをするのが非常に有効と思う。というのは、指定された避難所に、あらかじめ決められたルートで行くと、佐用町のようなケースが起こりかねない場合もあると思う。そのため、実際に自分自身で避難所へ回ってみて、どこがどういうふうに、例えばハザードマップのこのあたりが危ない場合は、ここを避けて行くルートを考える。それが、雨の場合や津波の場合でいろいろ違うと思うので、その辺を確認する意味で、まち歩きをしながら避難ルートを確認するというのが非常に大事と思う。(県民委員)
- ・NHKの「プラタモリ」という番組があるが、この番組のいいところは、高さを知ろうとするところである。ここからここまで、高低差があるのかないのか、平たんな道なのか、急な坂道なのかといったようなことが大切で、これはどういうことかということ、その土地の成り立ちがわかるわけです。実際歩いてみると、高さがある、崖があるという、平面図ではなかなかわからないようなものも、自分の足で歩くと「こんな坂道は歩けない」というようなことがわかります。手づくりハザードマップを作成するときは、今の意見のように、まずは自分で歩くということが一番基本になる。(会長)

(5) その他情報提供

事務局は、資料-5-(1)~(2)について説明を行った。

3 その他

また、以下の2点について事務連絡を行った。

- ・議事概要を作成するので、各委員には確認をお願いしたい。
- ・来年度以降も引き続き計画のフォローアップ等を議論して頂く予定であることから、推進協議会等の開催日程が決まり次第、連絡する。

4 閉会

第3回神戸（表六甲河川）地域総合治水推進協議会 出席者名簿

(順不同、敬称略)

区分	委員氏名	主な役職	出欠	代理人氏
学識経験者	沖村 孝	神戸大学名誉教授	出席	
兵庫県	水埜 浩	兵庫県民センター長	出席	
神戸市	末永 清冬	神戸市建設局長	代理	建設局防災部長 林 泰三
県民	柴田 征三	東灘区 住吉川清流の会会長	欠席	
	大森 末弘	灘区 河原自治会長	出席	
	後藤 實	中央区 東川崎ふれあいのまちづくり協議会会長	出席	
	中井 末治	兵庫区 菊水地区防災福祉コミュニティ委員長	出席	
	渡邊 攝子	兵庫区 湊山地区防災福祉コミュニティ委員長	出席	
	岸本 圭吉	長田区 番町地区防災福祉コミュニティ本部長	出席	
	佐々木 利雄	須磨区 大黒地区防災福祉コミュニティ本部長	出席	
	濱田 純一	垂水区 垂水自治会連絡協議会会長	出席	

議事録確定署名人

会長：神戸大学名誉教授

沖村 孝

兵庫県神戸県民センター長

水埜 浩